

小麦情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.1

Tel. 018-860-3410

Fax. 018-860-3834

出穂期は平年並の5月10日。赤かび病の適期防除を！

1 気象経過(令和7年4月1日～5月14日)

アメダス大湯

〈概況〉

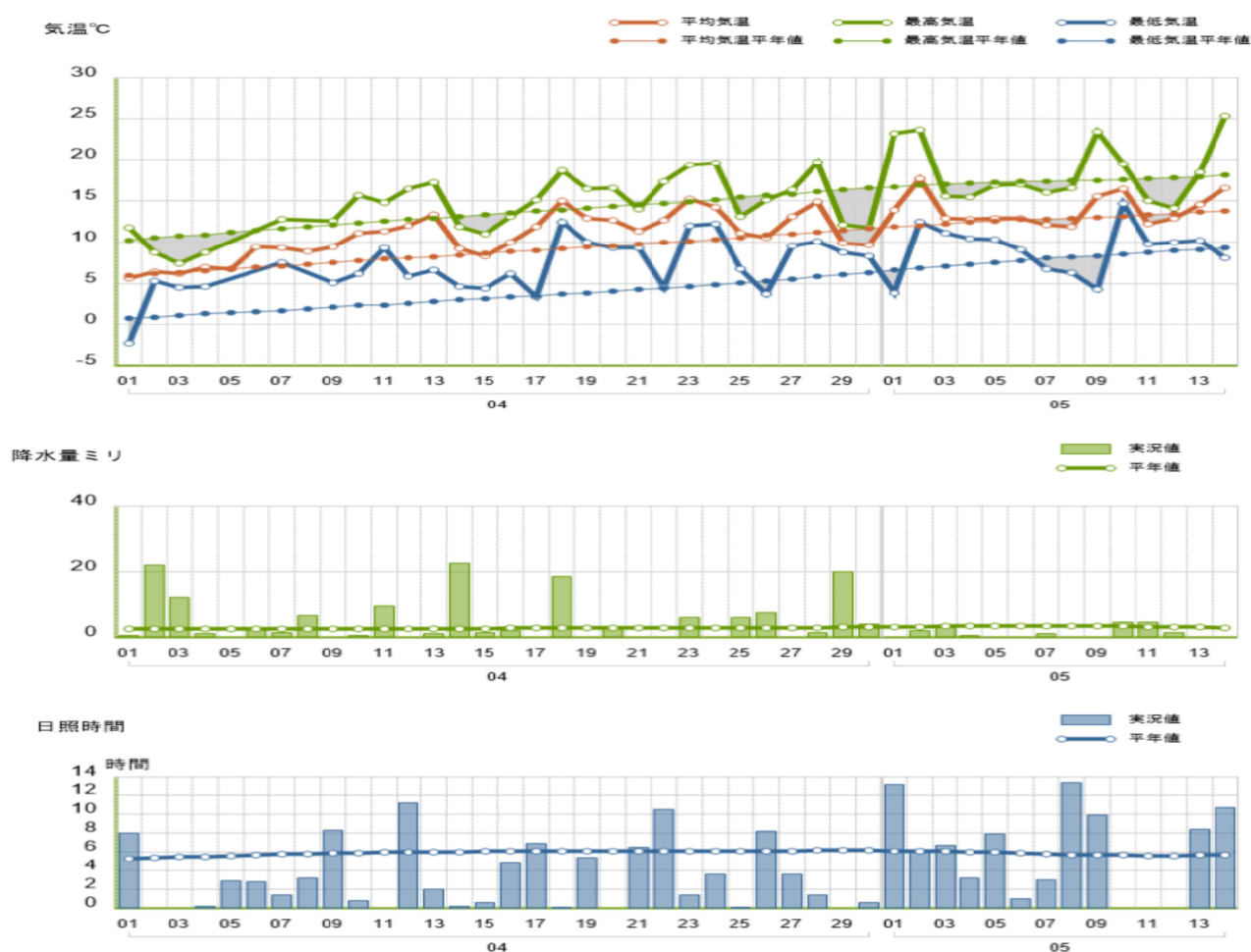


図1 日毎の気象経過(2025年4月1日～2025年5月14日)

4月～5月中旬は最高気温が低い日もありましたが、気温は概ね高く推移しました。特に4月は断続的に降雨があり、日照時間は記録的な少なさとなりました(図1)。

5月15日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。特に、期間のはじめ(5/17～5/23)は気温がかなり高くなる見込みです。

2 令和7年産小麦の生育状況(R7年5月15日現在)

- ・大潟村の小麦ほ場4地点で実施した生育調査（品種：銀河のちから）によると、5月15日の草丈は84.8cm（平年比113.4%、前年比101.1%）、茎数は787本/㎡（平年比134.8%、前年比118.8%）、葉数は13.0葉（平年比+0.3葉、前年比+0.1葉）となっています（図2）。
- ・出穂期は平年より1日遅い5月10日頃となりました（大潟村農協聞き取り）。今後の気象経過に注意し、適期防除を実施してください。

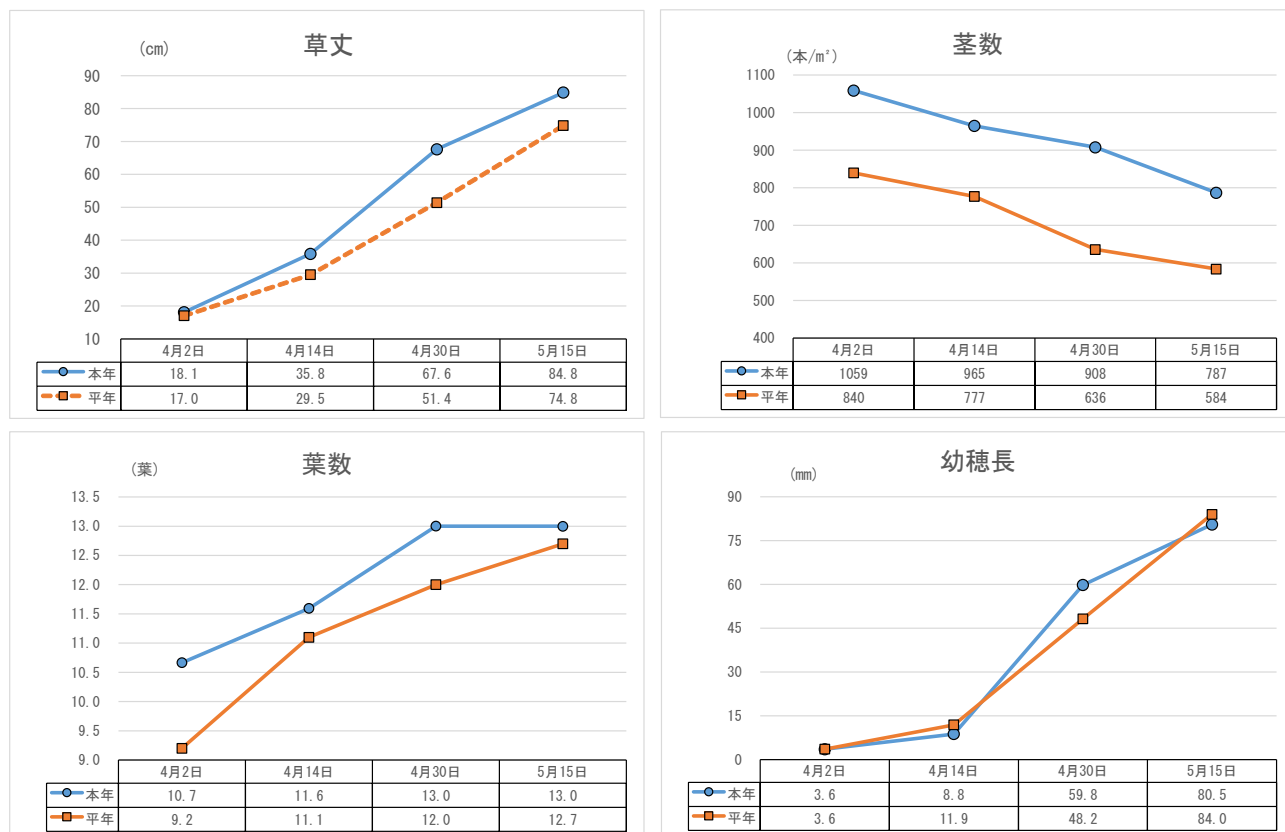


図2 令和7年産小麦の生育の推移(「銀河のちから」4地点平均)

3 赤かび病防除について

- ・赤かび病は開花が始まってから10日程度の間が最も感染しやすく、この間に降雨が続く、気温が高いと多発します。薬剤による防除は開花始期に1回目の散布（シルバキュアフロアブルまたはストロビーフロアブル）を行い、1回目の散布から7～10日後に2回目の散布（トップジンM剤等、1回目の散布薬剤以外の薬剤）を行います（表1）。開花始期に1回目の薬剤散布ができないと予想される場合は早めに散布してください。
 - ・本年の出穂期は5月10日頃です。一般的に出穂期から7～10日後に開花期を迎えるため、1回目の散布は5月17日頃、2回目の散布は5月24～27日頃が目安となります。
 - ・ほ場間での生育差が大きい場合はよく観察して適期防除に努めてください。
 - ・耐性菌出現回避のため、RACコードが1、3、11の薬剤は連用を避けてください。
- ※赤かび粒の混入が0.0%を超えると規格外となり、同病で発生する毒素（DON（デオキシニバレノール））が1.0ppmを超えると食用小麦として販売できなくなります。

◆赤かび病防除薬剤（表 1）

RAC コード	薬剤名	散布量又は希釈倍数	散布量 (/10a)	備 考
1	トップジンM粉剤DL	4 kg/10a	—	
M2	イオウフロアブル	400～800倍	100～150 L	
3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	100～150 L	無人ヘリ散布（16倍 液0.8L/10a）
11	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	100～150 L	
M2/UN	石灰硫黄合剤 ※ ¹	50～60倍	100～150 L	
1	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	100～150 L	
1	トップジンMゾル	8 倍	0.8 L	無人ヘリ散布

※ 1 : O A T 石灰硫黄合剤は100倍。